

試合結果

3月29日（土）対四街道高校

第1試合 雨のため中止

第2試合 雨のため中止

3月30日（日）

対宮城広瀬高校 7対2 勝利

対三郷北高校 11対10 勝利

3月31日（月）

対飯能高校 3対3 引分

対田無工科高校 17対8 勝利

今季通算成績 9勝 3敗 1分

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R7. 4. 3

発行ナンバー 1167号

（北村主将の代・65号）

キャプテン

チームが想定以上の活躍をする時、そんなチームには何か共通するようなことがあるのでは？
そんな風に感じています。

今回の浦和実業学園高校の活躍、監督の辻川先生は小野主将がいたからという発言をされています。彼はエースでも4番打者でもありません。ケガの関係で、この甲子園大会は1試合も出場していない選手です。

市高36年前の甲子園出場、これも恩師・中村先生は（今回の浦実同様）隻手主将（現・越谷総合高校監督）がいたからという発言を繰り返されています。隻手さんも8番レフト、確か甲子園を決めた県の決勝戦は出場していなかったハズ（選手として目立っていた訳ではありません）。でも、当時を知る方からは今でも、隻手君のキャプテンシーが凄かったのよ～そんな話を聞きます。

今、この立場になって思うこと、想定以上の結果を出すチームは、キャプテンが中心となって、指導者に余計な心配をさせないようにすることが出来ているのではないのでしょうか？（指導者が相手との戦いに集中できる）また（指導者が関わることなく）選手達だけで（勝手に）良い雰囲気を作ってくれ～そういう時に、キャプテンが自チームをそういう風にできる・・・

何度も言っていますが、チームスポーツには「見えない力」が存在しています。その存在に気づき、充実を図りたいと常に考えています。

現キャプテン・北村にも頑張って欲しいと思います。プレッシャーはかけていません（笑）。

厳しい・・・でも

上記の通り、3月中旬からスタートした練習試合は、結構な試合数を実施することができています（2試合目が途中までだったり、雨で試合が流れたりもしていますが・・・）

試合の前後で相手校先生と話をしますが、その話題の中心は「部員数（の減少）」に関するものが多いです。

子供自体の減少、さらにスポーツ種目の多様化による野球をする子の割合の減少、中学時に野球をしていても高校で野球をしないという子供も増えているようです（高校から野球を始めるという子は昔も今も少ない、というよりこれは厳しい）。

ただ（皆分かっていることですが）嘆いていても何の解決にも繋がりません。誰かが自分の高校の野球部員を増やしてくれるわけではないからです。また、この問題に立ち向かうにはとても強いエネルギーが必要です（結局、今以上に忙しくなるので）。

関係者の皆さん、部員数確保にご協力下さい。
よろしくお願い致します。